

[1 4]西臼杵郡小体連（学校数 1 3 校・児童数 9 3 0 人）

I 年間事業

期 日	事 業 名	主 な 内 容	会 場
5 月 7 日	第 1 回郡小学校体育主任会	役員選出・事業計画	高千穂小学校
8 月 2 2 日	第 2 回郡小学校体育主任会	研究提案・陸上教室検討	高千穂町中央公民館
1 0 月 1 7 日	第 3 回郡小学校体育主任会	陸上教室前日準備	五ヶ瀬町 G パーク
1 0 月 1 8 日	第 3 9 回郡小学校陸上教室	陸上教室運営	五ヶ瀬町 G パーク
2 月 2 1 日	第 5 回郡小学校体育主任会	本年度のまとめ・監査報告	高千穂町中央公民館

II 事業部のあゆみ

1 陸上教室

(1) 大会名 第 3 9 回西臼杵郡小学校陸上教室

(2) 実施日時 平成 3 0 年 1 0 月 1 8 日

(3) 会 場 五ヶ瀬町 G パーク陸上競技場

(4) 参加児童 郡内小学校第 5 ・ 6 学年児童

(5) 競技種目 一般参加 男女別 1 0 0 m 走
選抜競技 1 0 0 m 走・ 5 0 m ハードル走
8 0 0 m 走（女子）・ 1 0 0 0 m 走（男子）
ソフトボール投げ・走り幅跳び・走り高跳び（第 6 学年）
4 0 0 m リレー

(6) 表 彰 一般参加 記録証を授与する。
選抜競技 学年別、男女別、種目ごとに上位 6 位まで賞状を授与する。
ただし、リレーは上位 3 位までのチームに賞状を授与する。

(7) 反 省

- 本年度は好天候のもと実施することができた。
- 児童はテントの中で観戦、応援することができた。
- 五ヶ瀬町から借りた音響機器がうまくつなげず、急遽、小学校の音響機器を借り実施した。
児童が待機するテントの場所によっては、聞こえづらいところもあった。
- 体調面での心配、大きな怪我等もなく実施することができた。
- 各校体育主任を中心に協力して大会運営を行うことができた。
- 県標準記録突破者が 6 年女子 4 名誕生した（選抜 1 0 0 m 走 1 名、選抜 8 0 0 m 走 1 名、ソフトボール投げ 2 名）。 6 年女子の 4 0 0 m リレー 1 チームも標準記録を突破した。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題

主体的に運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方
～山間部小規模校の実態に即した活動の創造と展開～

2 主題設定の理由

(1) 西臼杵郡における学校規模の実態

へき地校 7 校、平地校 6 校→高千穂小学校以外は複式学級を有している。

長所： 運動量の確保がしやすく、個別指導が行いやすい。

学校独自の体力向上に向けた取組が行いやすい。

共通理解・共通指導がしやすく、研究内容が浸透しやすい。

へき地計画交流校が多いことから、県内他地域の小体連の取組について、把握しやすい。

小中学校が連携し、児童・生徒の体力を経年変化を追って把握することができる。

短所： 校務分掌の入れ替わりが多く、研究の継続が困難である。

少人数のため集団競技が行いにくく、児童の体力差も大きい。

(2) 子ども達の実態

- ・徒歩通学を推奨している学校が多く、足腰が丈夫な児童が多い。
- ・スポーツ少年団の種類は豊富だが、体力の二極化が見られる。
- ・「体育のやくそく」が浸透し、規律のとれた集団行動がとれている。

3 研究の目標

- 小規模校の実態に即した体育科学習や校内活動、授業展開や具体的指導の在り方について究明し、西臼杵郡内の小学校に普及させる。また、体育科における資質・能力を育成するための「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を相互に関連させ、体育科に求められる学びのより一層の充実が図られるようにする。

4 研究仮説

- 体育科学習において主体的な学びが図られるよう、教材・場・課題のもたせ方を工夫し、小規模の特性を生かした対話的な学びを活動に位置付けることで、体育科に求められる学びの充実につながるであろう。

5 研究の実際

(1) 主体的な課題設定を行う工夫

① 「体育のやくそく」を活用した体育科学習の取組

西臼杵郡小体連では、6 年ほど前から郡内各校に「体育のやくそく」を浸透させ、主体的な体育科学習の実施に努めている。体育主任が各校において伝達し、どの学級でも「体育のやくそく」を軸とした授業の展開に努めている。課題設定や話合いの場面、友達への声のかけ方など、継続した指導が行われている。体育館に掲示することによって、児童も教師も意識することができた。

また、⑥の「なかよしワード」を意識させるとラインサッカーなどのゴール型ゲームでミスをしてしまった児童に対して「ドン



マイ！」「また、次がんばろう！」と声をかける児童が増えてきた。よいプレーをした児童には、「ナイス！」や「〇〇さん、すごい！」などの声かけを多く見られるようになった。授業後も学習の振り返りに活用することで自己評価を行い、定着に繋がっている。

② 児童同士による課題設定

子ども達は、前時に指導された技のポイントをもとに、小グループで技を見合い、気付いたことをワークシートに記入する。書いたワークシートをもとに小グループで話し合いながら、それぞれの本時の課題を設定する。自分では気付かなかった部分を友達からアドバイスされることによって、より具体的な課題設定を行うことができる。アドバイスすることによって、自らの振り返りにもつながるので、効果的な課題設定の仕方といえる。

③ ICT(タブレット)を使った指導の工夫

グループで話し合いながら設定した課題に沿って、グループごとに練習させ、お互いの技を見合いながら課題に沿ってアドバイスをさせる。友達の技を見る位置や技を見るポイントについては、グループ単位で指導を行う。また、ICT(タブレット)を活用し、10秒前の映像が自動再生するアプリを見ながら、課題に沿ったアドバイスをするように指導した。これにより、アドバイスもより具体的となり、技の改善にとっても効果があった。ICTの活用によって指導方法の幅が広がり、動画を見ながら指導することによって、児童と教師のイメージを共有化することにもつながった。



(2) 各学校におけるそれぞれの取組

① 朝のトレーニング・ストレッチ

全校で一斉に音楽に合わせてトレーニングを行った。内容は、体幹トレーニングや柔軟性を鍛えるストレッチである。児童が正しい姿勢を保持するための筋力の向上がねらいである。継続してストレッチを行ったり、気軽に運動に取り組める環境づくりを行ったりしたことで、体幹を鍛えたり柔軟性を高めたりすることに繋がっている。

西臼杵郡では、立腰指導に取り組んでいるが、体幹を鍛えることで、立腰の姿勢も身につけてきた。



【朝のトレーニングの様子】

【ストレッチの様子】

② 体力テストの結果を生かした取組

体力テストで課題の見られた種目を中心に、体育学習の初めに実践した。内容は、反復横跳びや上体起こし、学年の実態に合わせた時間走や握力を高める手立てとしてのグーパー体操などである。



(3) 山間部小規模校ならではの体力向上に関わる取組

① 朝の時間や業間における取組

各学校において体力を高める機会を設定している。内容は、体ほぐし運動や持久走縄跳びなど季節に応じた運動を行う。活動は異学年縦割り班で行い、体を動かす楽しさと共に、仲間と交流する楽しさも感じさせている。



② 小規模校による全校一斉の運動遊び

小規模校の特性を生かし、委員会活動で計画し、実施した「全校で遊ぶ日」の設定を行っている。異学年で交流する場となり、遊びの内容も様々な運動にふれられるよう工夫している。縦割り清掃班や地区別に分けて競い合う場面を設定するなど、グループを様々に変え、楽しみながら体力向上を図れるよう工夫している。



③ 9か年の経過を分析できる体力カードの活用

高千穂中学校校区統一（高千穂小・押方小・岩戸小・高千穂中）が連携して、9か年を通して新体力テストの結果を記入できる「体力カード」を作成している。児童は、自分の体力について9か年を通じた経過をたどることで、目標の設定や自己管理にも役立てている。小学校卒業から中学校入学の引継資料として、7年目が経過している。今後さらに有効な活用を模索している。

④ 中学校との連携

山間部小規模校ならではの特性を生かし、中学校との連携を積極的に行っている。五ヶ瀬中学校の体育担当の教諭に来校していただき、走力指導を行った。ラダーを使った練習を通して速く走るコツを知り、体力向上に取り組むことができた。

また、担任以外の教員にも参観を促し、今後の授業づくりに生かしてもらえるようにした。



6 研究のまとめ

西臼杵郡小体連では、年々小規模化していく山間部の特性に鑑み、各町内の小中学校による連携を進めている。小規模であることのデメリットに目を向けるのではなく、小規模だからこそそのメリットを、各校の連携によりさらに大きなプラスへ変えていくよう、今後も西臼杵郡小体連の研究を深めていきたい。